

# 平成29年度 学校経営方針

平成29年 4月1日  
大田区立大森第六中学校 校長 松尾 廣文

## I 教育目標

◇大田区立大森第六中学校の教育目標◇

- 1 気品ある生徒の育成
- 2 実力ある生徒の育成
- 3 健康のすぐれた生徒の育成

◇大田区教育委員会教育目標◇

- 1 意欲をもって自ら学び、考え、行動する人
- 2 思いやりと規範意識をもち、社会の一員としての役割を果たす人
- 3 自らの可能性を伸ばし、未来を拓き、地域を支える人

本校は、平成23年1月11日にユネスコスクールに加盟しました。「地域の学びから世界の学びへ」を通して、持続発展教育（ESD）「持続可能な社会の担い手を育む教育」を推進していきます。

ユネスコスクールとしての取り組み

持続発展教育（ESD：Education for Sustainable Development）は、私たちとその子孫たちが、この地球で生きていくことを困難にするような問題について、考え、立ち向かい解決するための学びです。

本校では、環境教育、国際理解教育、防災教育等の持続可能な発展に関わる分野にとどまらず広く各側面から総合的に取り組み、持続可能な社会の担い手を育む教育を推進していきます。

ESDの実践には、特に次の2つの観点があります。

- ・人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- ・他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと

この観点を重視しながら教育活動を展開していきます。

## II 学校経営の理念

- 1 生徒にとってかけがえのない青春を謳歌させる。そのために、①友との出会い ②先生との出会い ③打ち込むものとの出会い ④感動との出会い等を見出せるようにし、「入学してよかった」と生徒が真に思える大森第六中学校を創っていく。
- 2 教職員が、それぞれの役割を確実に果たし、組織的に教育課題に取り組み、区民の信託に応える。
- 3 保護者・地域の大人達とが一体化し、多くの学びや体験から、学習・生活への向上心を高めるとともに、将来の生き方を見出せる学校を目指す。
- 4 開校70周年の年を迎え、今後も区民の深い信頼を得る大森六中であるよう「Ⅲ 本校教育を推進する11の鍵」の実践を図り、さらなる教育活動の進化を目指す。

## III 本校教育を推進する11の鍵

### (1)健全育成

- ・人権尊重に基づき、いかなる差別・偏見、虐めを許さない態度を養わせる。
- ・思いやりの心、助け合いの心をもち、規律と落ち着きのある生活を送らせる。
- ・挨拶、お辞儀、言葉遣い、けじめを徹底させる。
- ・区学校生活調査（メンタルヘルス）を活用し、生徒理解を基にした健全育成を徹底する。
- ・規範意識の向上を期し、学校生活の様々な場面で、判断力を育成する指導を工夫する。

### (2)学力向上

- ・授業の挨拶、教室環境の整備、授業中の私語、授業以外の作業などはさせないよう授業に集中させ、真剣に学ぶ態度の育成する。
- ・定期考査前・土曜補習教室を効果的に活用する。
- ・朝読書などの読書活動の一層の推進を図り、読書習慣を身につけさせる。
- ・学習効果測定等の分析を生かした授業改善プランの作成と実行を通して、生徒の学力を伸長する。
- ・各教科でESD教育との関連を図った学習活動を工夫する。

### (3)豊かな人間性の育成

- ・各教科、体験活動との関連を図り、道徳教育の推進を図り、豊かな心を養わせる。
- ・考えさせ、議論させる道徳授業を工夫し、道徳的判断力を育成する。
- ・全ての教育活動に於いて、社会的視点取得を育成し、道徳性の伸長を期す。
- ・運動会、文化祭等の学校行事、部活動、体験活動を豊かな人間性を身につけさせる。
- ・生徒会活動、学級会活動、班活動等、校内の諸活動を通して、自治の意識を育成する。

### (4)進路指導・キャリア教育

- ・生徒の発達段階に応じ、生徒が将来の生き方を考え、適切な進路を選択するための能力を育てる。
- ・キャリア教育の充実を図るため、職場体験を充実し、自己の適性を探究し、将来、職業を通して、社会貢献をしようとする意欲を培わせる。

### (5)環境教育

- ・ゴミ問題や環境保全の意識を高め、生徒が進んで美化活動に打ち込む学校に一層していく。
- ・ホテルの飼育、空芯菜等による水質浄化プロジェクトを推進する。
- ・洗足池清掃、ミミズコンポスト、ゴーヤカーテンをはじめ、生徒のボランティア団体「農援隊」の活動を広げ、地域の環境美化活動にも参加する。
- ・フードロス、省エネ等日々の生活から環境問題に取り組む態度を育成する。

### (6)防災教育の推進

- ・防災についての学習・体験を行う。
- ・1. 2学年では、防災についての学習・体験を社会科見学等を通して行う。
- ・3学年は救命技能認定証の取得を通し自助・共助について学ぶ。学校防災訓練において学校防災拠点訓練を行う。
- ・地域の防災活動へのかかわりを深めていく。

### (7)地域社会との連携を重視する学校(地域理解、地域への貢献、地域からの支援)

- ・青少年対策千束・雪谷地区委員会、洗足風致協会、学校防災活動拠点、大岡山北口商店会、自治会、大田まちなみ維持課、東京工業大学、東京都公園協会、NPO 花とみどりのまちづくり等との連携、職場体験、春宵の響き、ガーデンパーティー、千束・雪谷スポーツ祭、商店会の行事参加、ホテルの飼育と放流、大岡山駅前花壇作り等との連携を推進し、地域の教育力を積極的に導入する。
- ・地域教育連絡協議会の活用を図り、六中学区として、地域と共に児童・生徒の健全育成を図る。
- ・学校支援地域本部による講演会、補習教室運営、交通安全指導等の支援にしっかり応える学校づくりをする。
- ・学校運営の指針を得るよう地域教育連絡協議会との連携を深める。

### (8)小中一貫教育の推進

- ・生活指導スタンダードの検討等を通して、生徒の健全育成を小中一貫で行う。
- ・小中合同で指導方法の検討を行い、9年間を通した生徒の学びの充実を図る。

### (9)ユネスコスクールとしての取り組みと発表

- ・生徒たちが持続可能な社会の担い手となるよう、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動とESD教育との関連を図った教育活動を展開する。
- 特に、本年度は、区教委課題推進校、都教委持続発展推進校の指定を受け、研究主題を「ESDの推進及びカリキュラムマネジメント」とし、SDGsへの取り組み、ALを取り入れた授業改善、六中ループリックの向上、ESDカレンダーの精査を行い、その成果を中間発表する。
- また、文科省委託ESD形成重点校サステナブルスクール、ユネスコ本部ホールスクールとして、日本全国、世界各地の学校と連携し、ESDの普及、推進を図る。

### (10)区民の信託に応えるために

- ・教職員が、それぞれの役割を確実に果たし、組織的に教育課題に取り組み、指導方法の工夫を行う。
- ・校務分掌に基づく職務を迅速に遂行する。
- ・OJTによる若手の育成を毎日の職務の中で着実に行う。
- ・文書による適切な事案決定を行う。
- ・校内予算については、コスト意識をもって、適正化を図る。
- ・教育公務員として研究・修養につとめ、サービスの厳正に努める。
- ・学校評価補助資料の結果を学校経営の指針にし、経営計画を作成する。

### (11)大森六中生を思う皆さんのアイデア・・・

- ・六中生を心から愛する皆さんのアイデア、思いを結集して、学校教育に生かす。